○ タ　イ　ト　ル ： 北海道のがん患者さん支援の充実に向けて
～2023 がん治療とソーシャルワーク専門部会研修会～

# アンケート 【開催後】

○ 日　　時 ： 2023年1月24日(火)18:30～20:00

○ 会　　場 ： オンライン開催

○ 対　　象 ： 医療・介護・福祉・行政従事者、患者さんの療養支援に関わっている方

○ 参　加　費 ： 無料

○ 参加者数（講師含） ： 157名

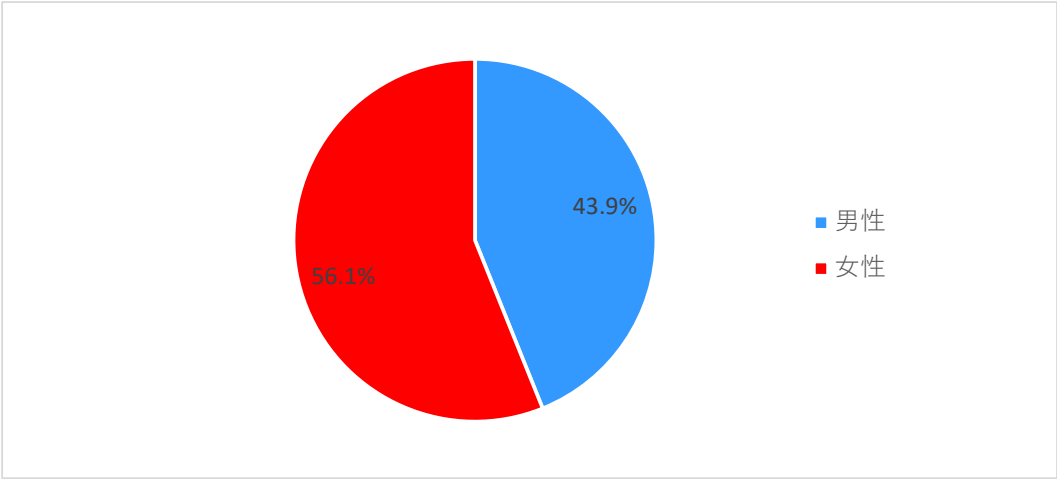
○ アンケート回収数 ： 82件

共　　催 ： がん患者のための多職種チームケアと地域医療連携を推進するプロジェクト
北海道がん診療連携協議会相談・情報部会
北海道

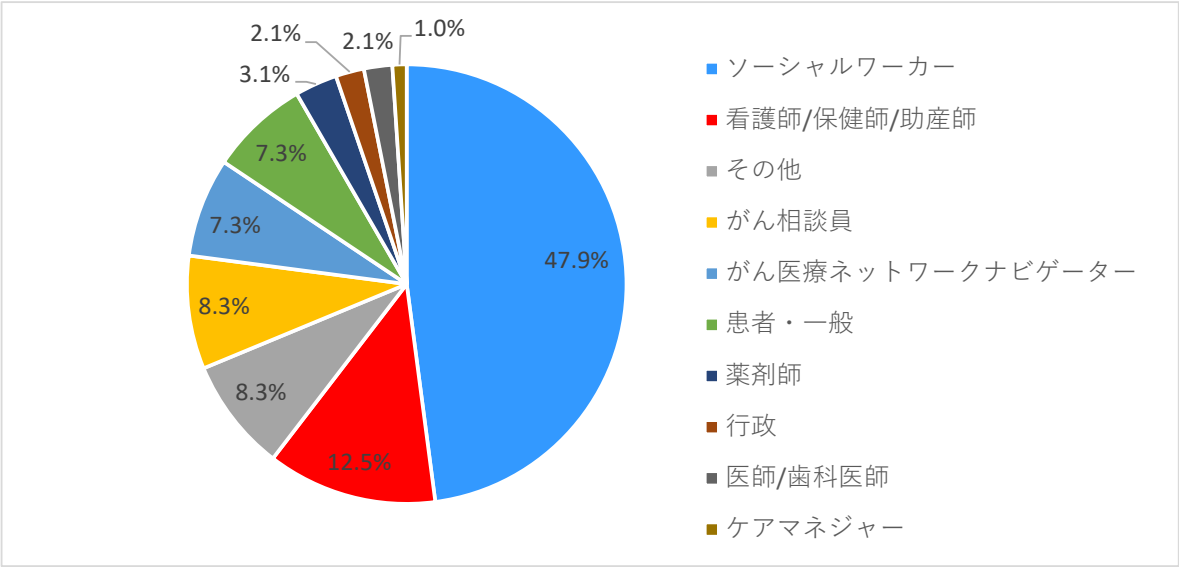
後　　援 ： 日本がんサポーティブケア学会

日本癌治療学会／ファイザーの医学教育助成金「がん患者のためのチーム医療・地域医療連携の推進に対する取り組み」の助成を受けて開催

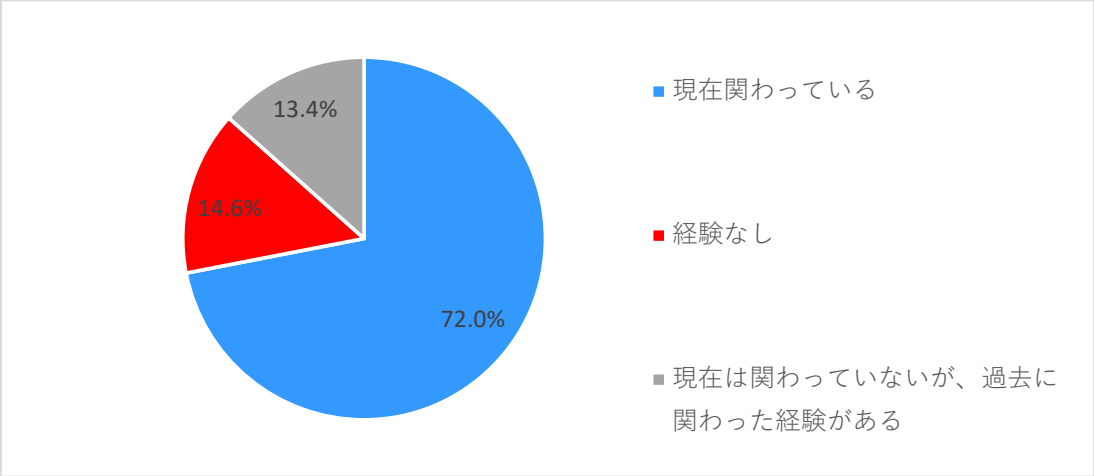
1．性別を教えてください



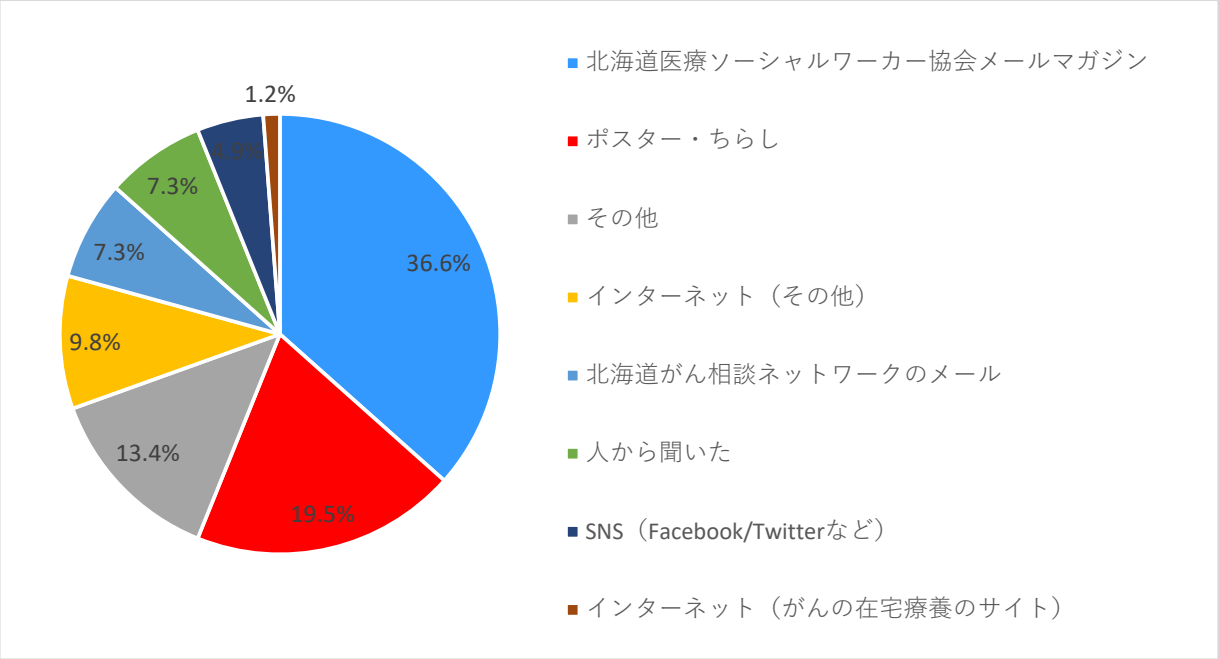

2．職種・属性をお聞かせください（複数選択可）



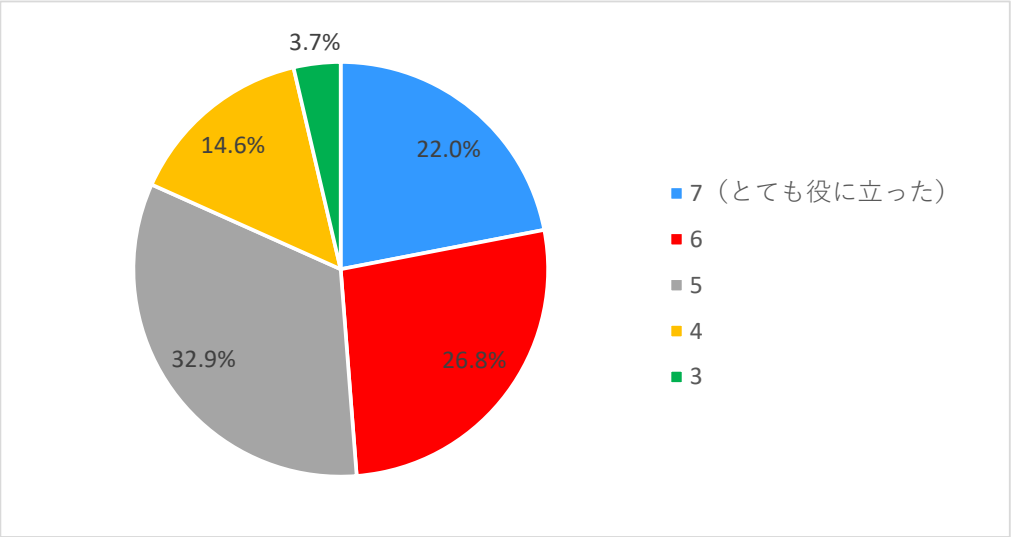

3．がん相談に関わったご経験をお聞かせください



4．研修会をどこで知りましたか




5．本日の研修会は役に立ちましたか（7段階で評価してください）
（1まったく役に立たなかったー7とても役に立った）



６．本日の研修会のご感想、ご意見をお書きください

| |
|---|
| 北海道の取り組みと実際を知ることができた（５件） |
| 大変勉強になった（4件） |
| 広域をカバーする在宅診療の実際を知ることができた（４件） |
| 帯広協会病院の田巻さんのご講演が特に興味深かったです。カバーする地域が広範囲だとすぐに訪問にいけないこともあるかと思いますが、その辺りのことを事例などでうかがえる機会があれば嬉しいです。 |
| 私は九州地区に住んでいますが、本日は雪が舞っており、交通への影響が出ております。北海道に住んだことはありませんが、状況はさらに悪いと予想します。そのような中で片道１時間かけて足を運ぶのは大変であろうと医療従事者の苦労が感じ取れます。サポートしようとする医師の思いの強さも大切であると感じました。 |
| 帯広協会病院の田巻さんの広域の訪問診療を行っているお話を拝聴し、頑張っている先生がいらっしゃることや周囲の方の協力と理解がある病院なんだと、感銘をうけました。自分の住んでいる地域でもリソースが少ないため在宅療養を希望しても対応できないことが多く残念に思うことも多々あります。ACPで意向を確認しても意向に沿えないことがあると申し訳なく、無力を感じることもあります。地域の先生たちの理解と協力がなければ限界があるでしょうし、国も時々入院ほぼ在宅を進めるのであれば診療報酬等なんらかの見直しとかがあってもいいのになと思います。住み慣れた場所で過ごせるようには連携と協力が必要と思います。 |
| 木川会長の質疑応答の際の「通院が困難な患者さん全てを在宅医療に結び付けるということでは解決しきらない」という回答が個人的にとても納得した。一つの要因だけでなく多方面との絡みがある中で人の生活における困難さがあると思うので、そのような調査の結果はとても興味深いと思った。 |
| 最初、先生の声の聴き取りにくさがありましたがスライドも見やすかったし概ね理解できました。18時半からの開始で勤務後に参加できたのでありがたかったです。皆様の取り組みや課題など共有いただいたので勉強になりました。 |
| 十勝地方全域をカバーする帯広協会病院のフットワークの軽さには、驚かされました。日高東部地区はフットワークの軽い訪問系サービスが多いものの、当院が属する日高中部地区や日高西部地区は訪問系サービスの数すら満足では有りません。市街地から少しでも外れた地域に至っては、がんではない、通常の訪問すら困難であり、がん看取りのハードルは相当高いと考えています。十勝よりも狭い日高で実現できないもどかしさを感じてしまいました。 |
| 多種多様な業種の方々が一堂に会して、がん患者さんやそのご家族為或いは北海道全域の道民の皆様方の為になる研修会の開催は素晴らしいと思います。会の益々のご発展を心より祈願しております。 |
| 他職種連携の重要性を感じました。また、地域によって在宅対応ができないという事にならないように、１時間かけてでも患者のもとへ足を運び対応されているのは、本当に素晴らしい取り組みだと思いました。 |
| がん相談の担当としてはまだ日が浅く知識不足なところもあり、今回の研修で制度や地域での取り組みについて知れて学びになりました。 |
| がんとの共生、地域で支える、医療・介護、行政等とのネットワークでき、治療・生活面でどこの地域にいても同じサポートが受けられるようになると良いですね。 |
| がん患者さんには、本当に多くの職種が関わっているのだと思いました。当院でもがん患者さんの通院も多いのですが、がんサポート外来や相談支援は目立って普及していなく、日々関わる職種のスキルはとても大事だと思っています。キャッチ力はこれからも大事に、また、医療者としてできる事を増やして、引き出しを多くして、できるだけ患者さん達が望んでいる生活に近づけられるようにならたいと思いました。 |
| 小児やAYA世代のがん患者と関わることが普段は少ないため、制度面について勉強になった。 |
| 医療機関や在宅療養機関との役割分担や連携が重要であり、是非、進めて頂きたい。 |

７．「がん患者さんのためのチーム医療と 地域連携の推進」に向けた ご提案をお書きください、今後の企画の参考にさせていただきます。

| |
|---|
| 地域の社会資源の量や内容によって支援に差が出るかもしれないが、意思決定支援という点では地域制関係なく同じと考える。逆に都市部の方が選択肢が多く支援の難しさはあると考える。事例検討ができれば参加者みんな自分のケースと照らして勉強になるのではないかと思う。 |
| チーム医療と地域医療の連携は大切だと思います。札幌や旭川など大きな都市と、地方の市町村では医療の格差もあると感じます。今後もオンラインを活用してこのような情報共有や病院同士の連携が進んでいくといいなと感じました。本日は研修会に参加させていただきありがとうございました。 |
| 化学療法で外来通院している方や、定期で短期入院を繰り返して治療をしている方の情報を持つ医療機関と、今後の病状の変化や現在の生活状況（社会サービス利用状態、家屋の状況）の情報を持つケアマネに特化した情報交換会。がんと診断され方針が決まり治療が開始、効果が薄れた際の薬剤変更となる方の医療機関の窓口と自宅生活における担当者の顔合わせの機会は重要だと思う。特に緩和ケアとして、入院には至らないが外来通院も厳しい（本人が自宅生活を希望する、他者の介入もぎりぎりまで拒む）方が短期と思われるが介護保険を利用することを検討するときに時間がかかってしまい結局、入院しか選択肢が残されないこともあり、もしスムーズに情報提供できて準備できていればもう少し自宅の時間が取れたと思った（裏で包括-医療機関で繋がっておけたらよかっただけかもしれないが…、）もしそういったことで上手な対応しているケースがあれば知りたい。 |
| チーム医療において医師や看護師、コメディカル、介護職の互いのコミュニケーションが重要かと思います。互いの役割を理解した上で、特に介護職から医療専門職に対して垣根が高く相談しにくいという場面が多いように感じます。患者さんの為に双方が職種や役割を理解して一緒に支えていく関係作りが出来ればと思います。「連携の推進」は容易ではないなと感じる日々です。 |
| 今後は、抗がん剤の進歩などで外来での相談は増えるはずですが、現状の雰囲気では相談の敷居は高いです。限られた専門職なのでオンラインで委託活用する専門病院、診療所などがあるといいのではと思いました。 |
| 今日が、よりよい情報提供と支援、連携体制づくりの実践に向けて話し合うスタートであったのなら、この研修会に患者家族の参画がぜひ必要ではないかと思う。 |
| 患者さんの選択を狭めてしまう地域資源格差に関する北海道や行政単位での意見・見解・展望を知りたい。患者支援を行う上で地域格差が重くのしかかる。この大きな問題に対する取り組みと実践例について知れたら有意義と思う。 |
| チーム医療と地域連携、何から始めればいいか。こういう会で同じ地域の人たちとはじめの一歩がスタートできるといいなあと思います。 |
| チーム医療の推進は、本当の意味での「対等な関係」が必要と思っております。そのためにもソーシャルワーカーは今まで以上に知識、技術等の向上に努めなければならないと思っております。また、地域連携の推進については、その地域ごとに課題は異なりますので、地域単位でしっかり考える土壌をつくらなければならないと思います。しかし、北海道では人や資源の問題があるため、一筋縄ではいかないと思います。そのため、地域をどう設定するかが鍵となると思います。 |
| どんな連携にも、一番、必要な事はシンプルにコミュニケーションだと思います。本日のような会を一回でも多く開催して、皆さんが顔の見える関係になることが必要だと考えます。 |
| 拠点病院において、がん相談や緩和ケアの領域では、地域の医療機関からも相談を受ける体制づくりを求められますが、なかなか地域の医療機関との連携や相談を受ける機会が持てずにおります。良い機会や示唆となる研修などを希望します。 |
| がん相談窓口では、どのように対応しているのか詳しく知りたいと思いました。予約制なのか、制約時間があるのか？？など、知りたいと思いました。 |

| |
|---|
| 道全体ではなく各地域の課題や取り組みをセッションできる機会があればよい。 |
| 医療機関や在宅を支える事業所だけでなく、このような会に行政や地域に暮らす人々も多数参加できるような働きかけが必要だと思う。 |
| 道内各地域の実践例を道民が知る機会の広がりもやはり継続的に大切と思いました。 |
| ソーシャルワーカーとくくらず、もっとノンテクニカルな人材にも応援してもらって、地域連携の推進を図るといいのではないかと思います。 |
| 広域に渡って行われるがん相談体制の確立をめざすための研修(がん拠点病院が、遠く離れた地域に暮らす患者、病院に対し、相談に乗れる範囲を周知する研修※実際におこなわれた相談事例を詳しく示して貰えたらより分かりやすいのかなあと思います。) |